

週間感染症情報

2019年23週 2019年6月3日より2019年6月9日まで

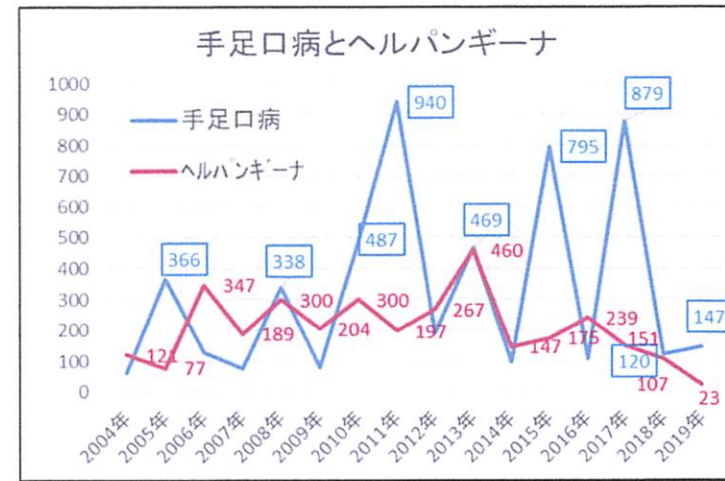
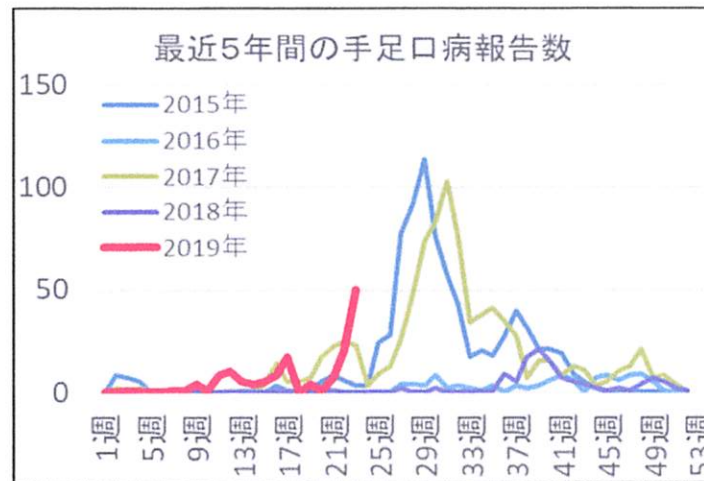
麻疹	
風疹	
水痘(みずぼうそう)	6
ムンプス(おたふくかぜ)	
百日咳	
溶連菌感染症	20
手足口病	50
ヘルパンギーナ	7
伝染性紅斑	2
感染性胃腸炎	33
ロタウイルス(再掲)	
便アデノウイルス(再掲)	1
突発性発疹	5
伝染性膿痂疹(とびひ)	9
ヘルペス性口内炎	
アデノウイルス感染症	
RSウイルス感染症	
マイコプラズマ感染症	
ヒトメタニューモウイルス	
インフルエンザ(臨床診断含む)	
インフルエンザA	
インフルエンザB	

患者さんは少ないです。

水痘は、市内の3小学校の1年(2例、1例、1例)、市内の2保育園(2歳、4歳)でした。

溶連菌感染症の報告も市内全域で見られます。

左下のグラフのように、手足口病が例年より早く増えてきました。また、右下のグラフのように、手足口病は隔年ごとに流行しており、今年は流行年のようです。現在流行中の手足口病は、高熱で、発疹が非定型的な症例も多く、嘔吐やけいれんを伴う例もあります。発熱してすぐに受診する例が多く、咽頭発赤のみで発疹のない例もあり、翌日になり発疹が出て診断がつく例もあります。多くの保育園の年少児で流行しています。しかし、家族より感染した幼稚園児や小学生もいます。1~2日で解熱して重症感はありません。便の中にウイルスは数週間排泄されますので、感染予防のために園を休ませるのは意味がありません。解熱して、食事がきちんと摂取できるようになれば、登園できます。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> 変更になりました。)